

身近な課題に取り組み生きる力を育む 地域課題解決型キャリア教育

2000年から地元中学との中高一貫教育を導入し、10年からは小中高一貫教育体制を確立。この間、研究指定校として断続的に6回の指定を受けている安心院・院内地域10校のダイナミックな取り組みを紹介します。

地域の願いをうけて 「地球未来科」でつながる 小中高一貫教育

第16回 **あしむ 安心院高校(大分・県立)**

取材・文／江森真矢子



「顕微鏡を置くのはどんな場所でしょう?」教壇の高校2年生が問いかけると安心院小学校の6年生が元気に手を挙げる。「太陽の光の当たらないところ!」「そうそう。なんでかわかるかな...?」。顕微鏡の使い方を一通り確認すると4班に分かれての観察が始まった。お互いに異年齢との交流は慣れた様子で、小学生に優しく対応する高校生の姿が頼もしい。

高校生にとっては教科で学んだことをアウトプットすることで深め、班で協働して観察素材や授業の構成を考へることで課題解決力を、小学生の学習をサポートしながらコミュニケーション力を伸ばすことが企図されている。

これは、安心院高校の「ゲストティーチャー活動」の一つ。同校食文化コースの生徒はパン作り、園芸マネジメントコースの生徒は収穫体験など、それぞれの学びを生かした活動が行われている。

授業が終わると小学校の担任から「ルーブリックを確認して、ふりかえりをしましょう」と声がかかった。高校生も同様にふりかえりを記入する。ここ、安心院・院内地区では小中高12年間で行われており、「ルーブリック」や「ふりかえり」は、教員にも児童生徒にも日常的な学習活動として定着している。

小中高10校の一貫教育

小学校7校、中学校2校、高校1校の一貫教育の中心は2016年度から本格スタートした独自科目「地球未来科」だ。12年間で4ステージに

分け発達段階に応じて①国際的視野で地域を捉える(関わる)力②地域の課題を国際的視野で解決する(工夫する)力③英語をツールとしたコミュニケーション能力を育むことを目指している(図1)。

教材となるのは地域特有の文化、歴史、自然、そして人。学年が上がるにつれ、町から市、県内外へと視野を広げていく。高校では地域の魅力を外国人留学生に伝えるツアーや、地域課題を探究し英語でプレゼンする活動を行う。ローカル・グローバル双方の視点を持ち、地球社会の一員として主体的に課題を解決する資質・能力をもって社会に巣立つてほしいからだ。

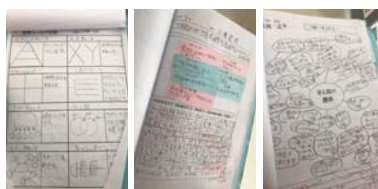
活動はポートフォリオとして蓄積され、ルーブリックと共に評価に活用される。高校入試では中学での学びを1枚にまとめることが課され、高校3年次には12年間のサマリーポートフォリオをもって修了認定するなど、学びの連続性が意識されている。

背景には 地域住民の熱い願い

実は、安心院・院内地域の一貫教育



昨年度スタートしたゲストティーチャー活動は、教科とも連携している。この日の活動は、細胞の観察。光学顕微鏡の使い方をどう教えるか、何を観察するかは高校生が班ごとに企画した。



小学生の時から思考ツールの活用やふりかえりを習慣化し、活動の記録はポートフォリオとして上級学校に引き継がれる。

は2000年から始まっている。研究開発学校に指定され大分県初の連携型中高一貫校となった後、断続的に4回の指定を受けて小中高一貫教育を開始したのが2010年。背景にあったのは独自性のある教育で学校を存続させたいという地域住民の意志だ。そもそも安心院高校自体が、高校進学に大きな経済的負担を伴っていた戦後すぐの時代に「地域の子どもは地域で育てる」を旗印にした運動によって開校したという歴史がある。

全戸署名など地域の後押しを得て開始した一貫教育も、順風満帆だったわけではない。中高での英語・数学の乗り入れ授業や連携型入試、毎月の全校連絡会議は続いてきたが、教



左から植山浩子先生(地域連携・研究指定担当)安藤耕平先生(校長)吉田朋子先生(地域連携・研究指定主任)。校長は宇佐市安心院・院内地域小中高一貫教育連携推進委員長、他2人は同事務局

School Data

1946年創立/全日制・普通科・コース制/生徒数221人(男子116人、女子105人)/進路状況(2017年度)大学・短大34人、専門学校17人、就職17人、その他3人

員の異動によって教育内容の一貫性が弱くなった時期もあった。研究開発を推進する吉田朋子先生は「異動したばかりのころは、小中学校の先生方との人間関係づくりからのスタートでした」という。しかし、全員で他県視察に出かけ、12年間で児童生徒にどんな力をつけたいか議論を重ねて骨格を作り、そのための具体的な教育内容を検討するなかで「今ではLINEでどんな話が進むようになったそう。」

同じく植山浩子先生は「連携教育は、教員にとっては生徒情報や学習歴がわかり、子どもたちにとっては今の勉強がその先にどうつながっていくか見通しがもてる良さがあります」と言う。全小中高が成果を発表するフォーラムでは小学校1年生から高校3年生までが舞台上に立ち、地域住民や保護者にも12年間の成長イメー

図1 「地球未来科」の目指す生徒像とKEY STAGEごとの評価基準

◆目指す生徒像

社会の諸問題に関わろうとする意欲をもち、論理的思考とコミュニケーションを駆使し、グローバル社会を主体的に生きようとする生徒の育成

◆地球未来科での到達目標

- ①「国際的視野で地域を捉える(関わる)力」
地域のひと・もの・ことに関わったり、地域と世界を比べたりしながら視野を広げ、多様な情報の中から、地域の良さや課題を見つけることができる。
- ②「地域の課題を国際的視野で解決する(工夫する)力」
学習課題を設定し、必要な情報を収集・選択・活用しながら解決の方向性を導き出し、自他の役割を考えながら協力して主体的に行動できる。
- ③「英語をツールとしたコミュニケーション能力」
自他の違いに気付き、相手に適切に伝えたり、相手の言葉を的確に理解したりすることにより、言語や国籍を超えて人間関係を築いたり、国際的視野で思考したりすることができる。

地球未来科で教科も連携

地球未来科でつきたい力を明文化していることは、授業改善にもつながっているという。社会科では現地調査・研究の方法、数学では統計資料

ジをもっともらうことができた。

の読み取り、国語では語彙・表現力の育成など全体を通してつきたい力を意識した授業がなされつつある。また、生物の学びを英語でプレゼンしたり、英語の素材文に合わせて当時の歴史を社会科で扱うなど教員同士の協働も進んでいる。

今後の課題は、小学校、中学校同

士の横の連携や、研究開発学校でなくなったときにも継続する仕組みを作ること。また、高校卒業後の生徒と一緒に考えていきたいという。「この不確定な時代には、大人が主体的にチャレンジしないと」という安藤耕平校長の下、安心院高校の挑戦は続く。

		活動テーマ(例)	評価基準	
			捉える(関わる)力	解決する(工夫する)力
KEY STAGE 1	小1	「新一年生をおせつたい」～うめぐみさんとあそぼう～ 「きせつはっけんたのしもう(あき)」	●身近なひと・もの・ことに意欲的に目を向け、自分とのつながりに気付くことができる。	●くり返し試したり確かめたりしながら、気付いたことを言葉や絵で表して交流し合い、比べ合うことができる。
	小2	「安心院のかんどうはっけんたい!」		
KEY STAGE 2	小3	「安心院の七不思議たんけん隊!」	●身近なひと・もの・ことに主体的に関わり、新しい知識や価値を探ることができる。	●情報・資料収集した内容を、思考ツールを活用して整理分析し、調べたことを伝えたい相手にわかりやすく伝えたり、比較し合ったりすることができる。 ●活動をふりかえり、素材を活用した新たな活動を想起・実行できる。
	小4	「もっと知ろう!もっと広げよう! 安心院の宝・鏝絵」		
	小5	「院内のしいたけ応援隊」 「地域の人が知ってもらおう! 自慢の安三米!!!」		
KEY STAGE 3	小6	「安心院イルミに参加しよう」 「Peace Messageを集めよう」	●身近なひと・もの・ことに関わりや他の地域との違いから、主体的に課題を発見できる。	●追究するために、情報・資料収集、資料活用をしてわかりやすくまとめ、相手を考えて効果的に伝えたり、比較し合ったりすることができる。 ●活動をふりかえり、新たな課題設定ができる。
	中1	「安心院の未来計画図を作ろう」 「地域の課題解決のために行動しよう」		
	中2	「地域の魅力について学び、安心院をPRしよう」 「我が故郷、院内町の発信活動しよう」		
KEY STAGE 4	中3	「安心院をさらに発展させていく活動を考えてみよう」 「魅力発見・課題解決のための活動をしよう」	●世界の諸地域との比較や社会の変化に目を向け、地域の特性を考察することにより、地域の価値や課題を見つけ、主体的に社会参画できる。	●追究するために、情報を取捨選択し他者の意見や主張を評価したり、建設的に評価したりし、多面的なものを見方や考え方を身につけることができる。 ●活動をふりかえり、国際的視野に立った問題の解決のために自分と地域、社会をつなげて考えることができる。
	高1	「安心院・院内学」 (フィールドワークを通じて地域の魅力や課題を整理、プレゼンする)		
	高2	「ゴールデンツアー」 (外国人留学生を案内するツアーを企画・実施)		
	高3	「グロリアプロジェクト」 (5テーマに分かれて課題探究活動)		

※「英語をツールとしたコミュニケーション能力」の評価基準は割愛しています